慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究第三十五巻 (昭和三十七年自一号至十二号) 総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1962
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.35, No.12 (1962. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19621215-0090

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第三十五巻（昭和三十七年自一号至十二号）総目次

論説

	号数	頁	通頁	執筆者
秋田事件裁判考	一	三	三	手塚豊
ラテン・アメリカにおける政治運動に関する一考察（一・二・三完）	一・二・三	五〇・三三・一四	一五〇・二五五・二六〇	賀川俊彦
無額面株式制度の反省	一	六六	六六	阪埜光男
文化人類学の応用について——文化人類学における研究領域の拡大に関する若干の考察——	二	一	一二三	十時厳周
社会変動と投票行動の分化（一・二完）	二・三	七八・三八	二〇〇・二八四	堀江湛
過料にかんする若干の問題	三	一	二四七	金子芳雄
アメリカにおける名誉侵害不法行為の準拠法	四	一	三四九	平良・
請求異議の訴と個別的執行の排除——訴訟における一部請求の可否——	四	二六	三七四	石川明
イスラム法に於ける犯罪と刑罰——シャーフィイー派を中心として——	四	三七	三八五	遠峰四郎
日本の対支外交（辛亥革命期）（一・二完）	四・五	六四・四九	四一二・五一三	池井優
管理運営事項と団体交渉事項——公労法第八条の問題点——	五	一	四六五	峯村光郎

昭和二年の地方選挙と無産政党……五　一九　四八三　中村勝範
教育テレビについての一考察……六　一　五七七　生田正輝
——アメリカの現状とその問題——
不執行の合意について……六　一九　五九五　石川明
インドにおける権力移譲への一過程（一・二完）……（六）（七）　四二　四一　六一八　七四五　松本三郎
——第二次大戦期の研究——
いわゆる„Ersatzhehlerei"と賍物罪立法について……七　一　七〇五　中谷瑾子
スウェーデンにおける非行少年問題とその対策……八　一　八四七　宮沢浩一
——少年刑務所を中心として——
第一回普通選挙と無産政党……八　三三　八七九　中村勝範
取締役職務代行者について……九　一　九五九　米津昭子
——実体法たる商法との関連——
平安時代における死刑停止について……九　一八　九七六　利光三津夫
現代政治と利益集団（一・二完）……（九）（十）　三五　二一　九九三　一〇八九　内山秀夫
——その理論的考察——
訴訟判決の既判力……十　一　一〇六九　伊東乾
アリストテレースにおけるポリスの本質と最善国制論の展開……十一　三　一一六三　石井良博
文化と政治の問題……十一　二五　一一八五　多田真鋤
——トーマス・マンの政治観をめぐる一試論——
スターリンによるレーニン主義的民族理論の継承について……十一　五五　一二一五　中沢精次郎
工業化過程におけるマルクス主義の動態……十一　七〇　一二三〇　奈良和重

社会相当性についての実務的考察……十二　一　一二九五　青柳文雄
百済亡命政権考……十二　二七　一三二一　利光三津夫

資料

『批評』総目次と解説……一　八七　八七　中村勝範
西独刑法改正に関する資料……三　六三　三〇九　宮沢浩一
——政府刊行物・著書・雑誌論文目録——
週刊新聞『大衆運動』総目次と解説……六　八五　六六一　中村勝範
「陳誠文庫」目録……七　八一　七八五　石川忠雄
——台湾における中国共産党史資料——
人工授精にかんする若干の調査……八　八〇　九二六　田中実
秋田事件裁判関係資料……九　六〇　一〇一八　手塚豊
荘内藩の「徒刑仕法調帳」……十　五四　一一二二　手塚豊
タイ国国際私法・帰化法及び国籍法……十二　五四　一三四八　須藤次郎

判例研究

【民事訴訟法】九　定期預金の差押と預金の特定……一　一〇一　一〇一　石川明
【労働法】一一　危険施設工場でのピケッティング……一　一〇五　一〇五　川口実
【商法】二一　白地小切手の補充権の性質……二　一〇五　二二七　阪埜光男
【商法】二二　債務引受は商法第一六八条第一項第六号の財産引受に含まれるか……三　七五　三二一　大賀祥充
【労働法】一二　組合分裂後のロックアウトとピケの正当性……三　八三　三二九　阿久沢亀夫

【民法】二四　租税代納の要件と利害関係の有無……四　九四　四四二　林脇トシ子
【商法】二三　執行猶予の判決をうけた取締役の資格……四　一〇一　四四九　米津昭子
【商法】二四　被保証手形の支払に基く人的抗弁……五　八四　五四八　倉沢康一郎
【刑法】九　賍物牙保罪における賍物の先在性……五　八九　五五三　中谷瑾子
【民法】二五　農地所有権移転についての知事の許可の意義等……六　九九　六七五　宮崎俊行
【労働法】一三　臨時工の契約更新拒否……六　一〇七　六八三　宮本安美
【行政法】一九　告示後直ちに教育委員会を開くことの可否……七　一一八　八二二　金子芳雄
【商法】二五　会社役員でないことの確認を求める訴の提起と商法二六一条の二の適用の有無……七　一二四　八二八　大賀祥充
【民法】二六　物上請求権と消滅時効ないし失効の原則……八　八六　九三二　内池慶四郎
【商法】二六　取締役会の決議に基かないで招集した株主総会の決議の効力等、株主総会決議の瑕疵に関する二三の問題……八　九〇　九三六　米津昭子
【民法】二七　事務管理者が本人の名でなした法律行為の効果……九　九〇　一〇四八　林脇トシ子
【民法】二八　強迫による雇傭契約の解消と取消……十　六〇　一一二八　田中実
【商法】二七　共同振出人の肩書地が異なりかつ支払地および振出地の記載が単に「東京都」である約束手形の効力……十　六八　一一三六　阪埜光男
【行政法】二〇　行政処分の違法性の治癒……十二　六三　一三五七　金子芳雄
【民法】二九　請負工事の瑕疵を理由として報酬の支払を拒めるか……十二　六八　一三六二　新田敏

紹介と批評

『ゴルトダンマー刑法雑誌』（一九六〇年）……一　一一一　一一一　宮沢浩一
桜井庄太郎著『恩と義理』……一　一一六　一一六　十時厳周
宮崎俊行著『農業法人の研究』……二　一一二　二三四　高梨公之
R・C・マクリディス「比較分析における利益集団」……二　一一七　二三九　内山秀夫
E・Z・ボグト「文化人類学における構造とプロセスの諸概念について」……三　九一　三三七　十時厳周
筑波常治著『日本人の思想』……三　九九　三四五　中村勝範
『全刑法雑誌』第七二巻（一九六〇年）……四　一〇八　四五六　宮沢浩一
H・マンハイム編『刑事学のパイオニア達』（刑事学叢書第一巻）……五　九六　五六〇　宮沢浩一
R・H・フィッツギボン、K・F・ジョンソン「ラテン・アメリカにおける政治的変化の測定」……五　一〇三　五六七　賀川俊彦
英修道編『日本外交史関係文献目録』……六　一一四　六九〇　石田栄雄
R・A・ダール「政治学における行動論的アプローチ――反抗運動の勝利の記念碑銘」……六　一二〇　六九六　堀江湛
太田武男著『家族法研究』……七　一三一　八三五　人見康子
R・C・マクリディス、B・E・ブラウン共編『比較政治学論文集』……七　一三五　八三九　内山秀夫
オラ・ニキスト著『少年審判』（ケンブリッジ刑事学叢書第十二巻）……八　一〇〇　九四六　宮沢浩一・坂田仁
E・フロム著『マルクスの人間概念』……八　一〇七　九五三　奈良和重
R・C・タッカー著『カール・マルクスにおける哲学と神話』……九　九七　一〇五五　松本三郎
板垣与一著『アジアの民族主義と経済発展』……九　一〇四　一〇六二　小田英郎
ヴァティキオティス著『エジプトにおける軍隊の政治的役割』……十　七三　一一四一　多田真鋤
カルロ・シュミット著『政治と精神』……

有田喜十郎著『倉荷証券法の実証的研究』……十　八五　一一五三　倉沢康一郎
『スイス刑法雑誌』第七七巻（一九六一年）……十二　七五　一三六九　宮沢浩一
福島正夫編『「家」制度の研究』（資料篇・第二巻）……十二　八四　一三七八　向井健

島田久吉教授を偲んで

故島田久吉教授肖影……十一　一　一一六一　板倉卓造
惜しみても尚あまりあること……十一　九九　一二五九　小池隆一
島田久吉君を偲ぶ……十一　一〇一　一二六一　今宮新
歴史家としての島田久吉君……十一　一〇八　一二六八　潮田江次
島田君を偲んで……十一　一一六　一二七六　永沢邦男
島田久吉君のことども……十一　一二三　一二八三　三浦又治郎
故島田久吉君を偲ぶ……十一　一二九　一二八九　前原光雄
後記……十一　一三四　一二九四